

見る人の心を 温かくする絵を 描き続けたい



「実りの秋」日本選抜美術協会HPより

広野夢大使で画家の鶴田徳満さん（＝小樽市在住）が昨年11月上旬に東京都美術館で開かれた第35回国際美術大賞展*で、文部科学大臣賞に輝きました。大賞に次ぐ栄誉。芸術家を数多く輩出している小樽でもただ1人の受賞となりました。

70歳から本格的に絵に取り組み、配色、表現方法、道具の使い方まで、絵に関するすべてを独学で身につけました。また、小樽で開催される年末チャリティーバザーなどのボランティアに取り組み、活動の幅を広げている鶴田さん。

そんな鶴田さんが描いた今回の受賞作品は、十勝地方でのジャガイモの選別作業を画題にしたもの。題名は「実りの秋」。昭和30年代に鶴田さん自身がモノクロ写真で北海道内の風景を取りためた1枚を参考にイメージを膨らませ完成させました。

受賞作品と鶴田さんが描く絵について電話インタビューしました。

今回の作品について

昨年、ひろの童謡まつりに参加させていただきましてありがとうございます。実は出発の前日の夜10時ごろまで、作品の仕上げに取り掛かっていました。ひろの童謡まつりに出席することが決まり、1週間、小樽の家を留守にするようになったので、その1週間間に作品が乾けば国際美術大賞展に出品しよう。もし乾いていなければ出品はあきらめようと思っていました。実際、1週間が経過して家に戻ったら作品が乾いていましたので出品することに決めました。

※国際美術大賞展とは

平成元年、新時代にふさわしい公募展、応募者のために存在する展覧会を目指して日本選抜美術家協会が主催してきた展覧会で、多くの美術関係者、画壇の注目を浴びながら飛躍的な発展を遂げたもの。そして、平成19年に第33回日選展と国際美術大賞展を一本化し、協会の本展として第35回国際美術大賞展を開催し、現在に至っている。（日本選抜美術家協会ホームページ参考）

今回の作品のこだわりについて

この作品の1番のポイントは、光と影をきちっと描き分けているところで、それにより人間の表情、雰囲気を出したところ。前を暗くして、後ろを明るくするよう工夫しました。

題名について

とにかく絵をわかって頂く、題名は絵の一部です。審査の対象でもありません。まずは制作に取り掛かる前に、仮題名をつけます。描きながら本当の題名を何にするか判断していきます。出品ぎりぎりまで悩み、出品してから切り替えることもあります。

町民の皆さんにメッセージを お願いします

私と広野町との関りは、弟（鶴田松盛さん）が折木字太平に住居を構えてからのことで、30年ほど前からのことになります。以来、十数回も訪れていますが、特に10年くらい前からは絵を通じて、弟の友人の方々と接し、広野町の皆さんの温かい人柄にひかれて毎年のように訪れては、共に飲み、共に歓談することを楽しみにしています。そんな折に、広野夢大使の話がありました。絵を描くことしか出来ないものですので、その重責に

迷いましたが、少しでも広野町のためになるならばと決心して、平成19年10月20日に山田町長より「広野町夢大使」の委嘱状を受けました。以来、2年ほど、東北に春を告げる広野町とは違い、気象的、経済的に厳しい北海道の現況をお伝えし、少しでも広野町の行政、産業、経済等の参考になればと、微かながらご報告をさせて頂いています。今後とも参考になるような情報を提供していきたいと考えています。

山田町長はじめ、広野町の皆さんのご健勝と、広野町の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

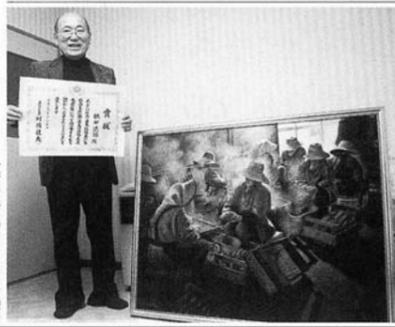
次の展覧会に向けて、広野町の風景画に取り掛かっているという鶴田さん。絵を見た人の心を温かくして、優しい気持ちを感じてもらいたいという言葉がとても印象的でした。

作品は日本選抜美術家協会ホームページでご覧いただけます。

なお、役場庁舎2階には、鶴田さんの作品「浅春」が展示してあります。来庁の際には、ぜひご覧ください。

光と影を強調 実りの秋を描く

小樽市鶴田さんの画家「抜美術家協会主催の鶴田徳満さん(76)が、文部科学大臣賞に輝いた」と喜んでいる。作品は「実りの秋」。50号の作品で今年10月から取り掛かり、10月に完成した。十勝地方の農作業風景が画題。作業小屋で収穫したジャガイモの選別を行う女性たちが描かれていた。女性はずつつき加



作品を横に「明暗を意識的に表現し、メリハリを付けました」と話す鶴田さん

減で、黙々と作業する様子が伝わってくる。また、奥から日が差し込んでいて、手前は選別の箱や人の影を強調。明暗を意識した鶴田さんの作風が表現されている。鶴田さんは「70歳から本格的に絵に打ち込んできた。今回の受賞が高齢者の励みになれば」と話している。（桜井則彦）

北海道新聞2009年12月19日掲載
地元新聞に、文部科学大臣賞受賞の記事が掲載

私が絵を描くときに、まず心がけていることは、対象が風景であれ、人物・静物であれ、常に温かい気持ちをもって制作に取り組みます。温かい気持ちで描いた絵は、見る人たちの心を温かくすると信じているからです。絵を描くには、技術は当然ですが、それと同時に見る人の心が和み、優しい気持ちになれるような温かい絵を描き続けたいと考えています。日本人が忘れかけている優しい心、絵を通じて、思い出してもらえたらと思います。



毎月、町へお送り頂いている広報や地元新聞の切りぬき